

# 茨城県桜川市立樺穂小学校（学校長 鈴木 均）

実施日	平成19年10月30日（水）	時間	午前9時～午後1時30分
実施場所	音楽室，家庭科室	対象/人数	6年生35名
担当教諭	宮田 真理子	ファシリテーター	杉浦 晴子
講師	楊 黙（中国・留学生）		

## 活動内容

中国の言葉や学校の様子の話・中国の餃子作り

## 児童の感想

- ・教えてもらった中でびっくりしたことがありました。それは、小学生は4時30分まで授業をやり、その後6時まで自習をするということです。中学生は8時までやるそうです。中国の子どもはたくさん勉強しているんだなと思いました。
- ・中国の子どもたちはたくさん勉強していて、わたしたちも負けられないなと思いました。中国の家庭料理は何でも今あるもので作るということを知りました。ピーマンがあればピーマンを餃子にいれたり、自分の好きなものをチャーハンにしたりと工夫していることがわかりました。また、餃子の皮を自分で作ったのは初めてだったので、柔らかくてとてもおいしかったです。
- ・中国語で不思議に思ったことは、なんで「ありがとう」なのに「謝」（あやまる）という漢字を書くのかなということです。
- ・中国の水餃子を作りましたが、中国では水餃子だけで焼き餃子がないことを知り、日本と違うんだなと思いました。
- ・中国から日本にわたってきたものが多いということは歴史の勉強で知っていましたが、実際に中国語を教えてもらって漢字を楊先生が書いた時は改めて実感しました。もっといろいろな国について知りたいと思いました。

## 先生の感想

- ・中国の子どもたちの普段の生活や学校での勉強のことなど、比べて話を聞くことができた。
- ・講師の楊先生とともに、本場の餃子作りを行った。餃子は皮から作り、皮作りをはじめて体験する子が多かった。中国では茹でて食べる餃子であり、それが主食となるものらしい。初めて知ること子どもたちは驚いていたが、それぞれのよさや日本に伝わってきた経緯などを知ることができた。講師の楊さんは大変友好的で子どもたちとすぐうち解けることができた。話もわかりやすく、質問にいていねいに答えてくださった。調理では、手際よく説明し、大変わかりやすかった。調理の際に楊先生に質問したり、手伝ってもらうことで自然に交流することができた。

## 保護者の感想

- ・我が家でも餃子は大好きで時々作りますが、焼き餃子なので、水餃子もおいしいなと感じました。子どもたちが生き生きと、そして自然に楊先生と交流し、役割分担をきちんとしながら実習する姿をみることができてよかったです。
- ・いつもは市販の皮ですが、楽しかったらしくさっそく家でもいっしょに作りました。
- ・中国の子どもたちの教育事情は、小学校時代から熱心であることを知り、そのハードさに驚きました。先生は親元を離れ、寮生活でがんばってこられたそうですが、その精神力の強さの源はどこからくるのでしょうか。「週末の休みにはお母さんの手料理が楽しみ」という先生の言葉から家族の愛情が何よりに支えになっているかもしれないと感じました。毎日の餃子作りでは、先生のお母様が夜のうちに生地を作ってねかせ、翌日お父様と一緒に皮を作るということでした。家族でおいしい物を食べるために時間と手間を惜しまず、家族で作る、そこには、日本が学んでいる食育のヒントがあるように思えます。皮作りは無理としても、家族で作る楽しさ、おいしさを改めて感じる事ができた料理体験でした。

## 成果と課題

- ・子どもたちは、中国について約1ヶ月調べ、それをもとに話を聞き、調べたことが確認できたり、改めて詳しいことを聞いたり事前の活動も生かされたものになった。楊先生の話も身近な話題であったため、子どもたちも中国と日本を比べながら聞くことができた。
- ・調理の時間を組み入ると、話を聞く時間が少なくなってしまう。体験活動をもとに交流を図れるが、時間にもっと余裕があるといいと感じた。

